



# 黒川温泉

永田円了

## The Road to Rebirth

熊本の山間に湧く黒川温泉。「こんな山奥じゃ客は来ない」と諦めていた若者たちが、結束して逆境を乗り越える、心温まる地域再生物語。このドラマの過程に、第一、第二、第三のみち（フェーズ仮説）、のエッセンスが見事に表現されている。それぞれの“みち”が、その特徴を生かしつつ、プラスのエネルギーをもって逆境を巧みに乗り越えるプロセスは、集団のあるべき姿を例示してくれる。

### ノンゼロサムを实践する不思議な先駆者

集団思考、横並びの平等主義で象徴される第一のみち。競争心もなく、成長することもないこの集団の中に、一人の不思議な先駆者（第二のみち）がいた。閑古鳥が鳴く黒川で、その宿だけが唯一、客が途切れなかった。あるじは、後藤哲也（50 歳）、先輩の同業者たちが眉をひそめる変わり者だった。だが哲也が代替わりしてから、客が増えていった。特に洞窟風呂は、哲也が 10 年かけて造った傑作である。また当時、他の旅館にはなかった露天風呂、景色の見え方まで精緻な計算がうかがえた。

この変わり者は、20 代の頃から 1 人京都をめぐり、庭や伝統建築を独学した。人は何に心地よさを感じるのか。黒川のあるべき姿を考え抜いた。行き着いた答えは、“本当の田舎”であること。田舎には人を癒すチカラがある。哲也はこの温泉造りの Know-How（技術）を、惜しげもなく他の同業者に教えた（**ノンゼロサム思考**）。



ノンゼロサム（Non-Zero Sum）とは、キャンドルサービスの灯のように、他者にあげても灯りは減らない。むしろ周りがより明るくなる、という考え方をいう。

普通は自分が獲得した技術を独り占めにして、競争に勝つことを考える（第二のみち）。しかし哲也は、自らの知識を同業者に分け与えることに歓びを感じた。チャーチルのコトバに、

「我々は手にする金銭で日々生計をたてている。しかし、人に何かを無償で与えることで本当の人生を築く」

（We make a living by what you get, but we make a life by what you give.）

### 自分自身を客観的に観る

哲也は言った。「一日一回、自分の旅館を正面からながめなさい」— メタ認知。それは、自分自身を客観的にみる目を養い、もう一人の自分をもつこと。キノコ狩りは探すが見つからない。少し引いてみると、キノコが見えてくる。哲也の智慧は、その後も黒川の再生に生かされた。

親たちが大事にしてきたものを受け継ぐ。それは、景観とか露天風呂の手形とかという物ではなく、親たちが築き上げてきたスピリットそのものを受け継ぐことであった。地震、コロナの苦難を乗り越え、親の背中をみて育った三世、四世たちは、更なる黒川の再生に向かって進む。

#### <事 例>

イチロー／「老いるとは」、エネルギーの老いだけはしたくない  
 養老孟司／学ぶとは、自分かわること。自分が変われば、周りが変わる  
 黒川温泉／新プロジェクト X、熊本の山奥にある温泉の再生ドラマ  
 カメルーンのバカ族／第一のみち、集団思考、横並び平等主義  
 映画「イーザーライダー」／第一のみちは、第二のみちの自由を許さない  
 ノンゼロサムの発想／キャンドルサービス、青学陸上部、ダルビッシュ投手  
 プロゴルファー・横峯さくら／自分を客観視する目を養う  
 MIT ラボ・伊藤穰一／anti-disciplinary 集中しない視点、キノコ狩り  
 歌・新沼謙治／「ふれあい」、人は一人では生きてゆけないものだから

